

## 7-3 てんかん診療地域連携拠点機関からの報告 ー西新潟中央病院ー

国立病院機構西新潟中央病院てんかんセンター・神経小児科 遠山 潤

### 要 旨

厚生労働省てんかん地域診療連携整備事業がはじまり約 1 年が経過し、全国 8 施設の一つとして当院も認定された。この 1 年間の当院の取り組みを報告する。

まず、新潟県てんかん診療拠点、地域医療支援センター事業として、新潟県障害福祉課、新潟県精神保健センター、日本てんかん協会新潟県支部、関連病院代表として新潟大学医歯学総合病院の方々を外部委員としててんかん治療連携協議会を開催した。ここでは、これまで一方通行であった新潟県内でのてんかん診療連携が課題とされ、今後、拠点病院を中心とした新たなネットワークを構築していく方針になった。

新潟県内の一般の方に対しては、てんかん診療の啓発活動として、市民てんかん講演会を新潟市と長岡市で計 3 回行い、てんかん治療の進歩、外科治療の紹介、などを行った。また、てんかんに関する臨床検査技師研修会、てんかんに関する看護師研修会、医師向けのてんかん夏季セミナー、学校や各種施設職員向けの専門職のためのてんかん講習会も各 1 回行った。それぞれ、熱心な研修がおこなわれたが、特に、学校現場でのてんかん発作時の対応、日常生活指導などについては参加者よりこれまでにないほどの関心がよせられた。

新潟県でのてんかん診療連携を作るための取り組みとして、新潟市医師会の後援で新潟市医師会および新潟市近隣の医師会員のために「てんかん地域連携講演会」の WEB 講演会を開催した。また、新たに新潟てんかん診療ネットワーク研究会を立ち上げ、新潟大学医歯学総合病院はじめ新潟県内の各病院とてんかん診療連携をどのように築きあげていくかを検討していくことになった。これらの取り組みを地道に続けることにより、新潟県内のてんかん医療レベルの底上げと、各病院間の診療連携が今後一層スムーズに行くようになっていくと思われる。さらに今後は新潟県外施設とのてんかん診療連携も構築していく必要がある。

### 1. 新潟県てんかん地域診療連携体制整備試行事業の目的

てんかん医療は、精神科、神経内科、小児科、脳神経外科などの多くの診療科が携わっており、新潟県および隣県において、どの医療機関がてんかんの専門的な診療をしているのかが周知されず、また一般医師へのてんかん診療に関する情報提供や教育体制がまだ確立されていない。本事業の目的は、西新潟中央病院をてんかん診療拠点病院として専門的なてんかん治療および患者への相談支援を行い、また周辺の医療機関との連携を密にし、てんかんに関する普及啓発活動を実施しててんかん診療における地域連携体制を確立させることにある。

新潟県が考えているてんかん対策の課題は、てんかん診療拠点病院としての患者集約、紹介元の医療機関へのてんかん普及啓発、新潟大学医歯学総合病院との連携である。

### 2. 新潟県てんかん地域診療連携協議会

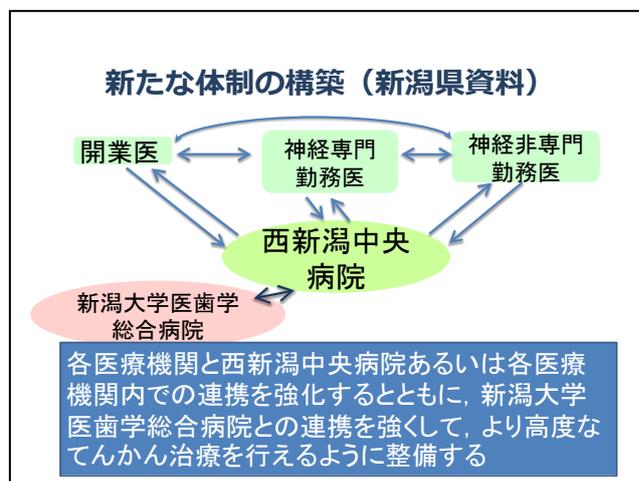
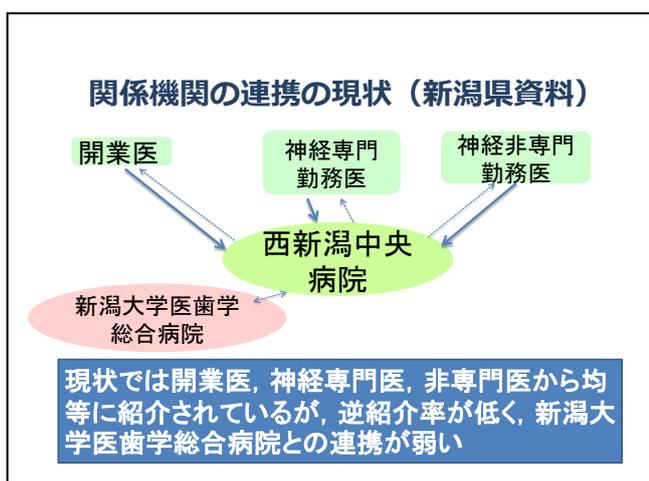
#### 1) 目的

これまでは一方通行であった新潟県内でのてんかん診療連携が課題であり、今後、拠点病院を中心とした新たなネットワークを構築していく方針になった。

## 2) 活動

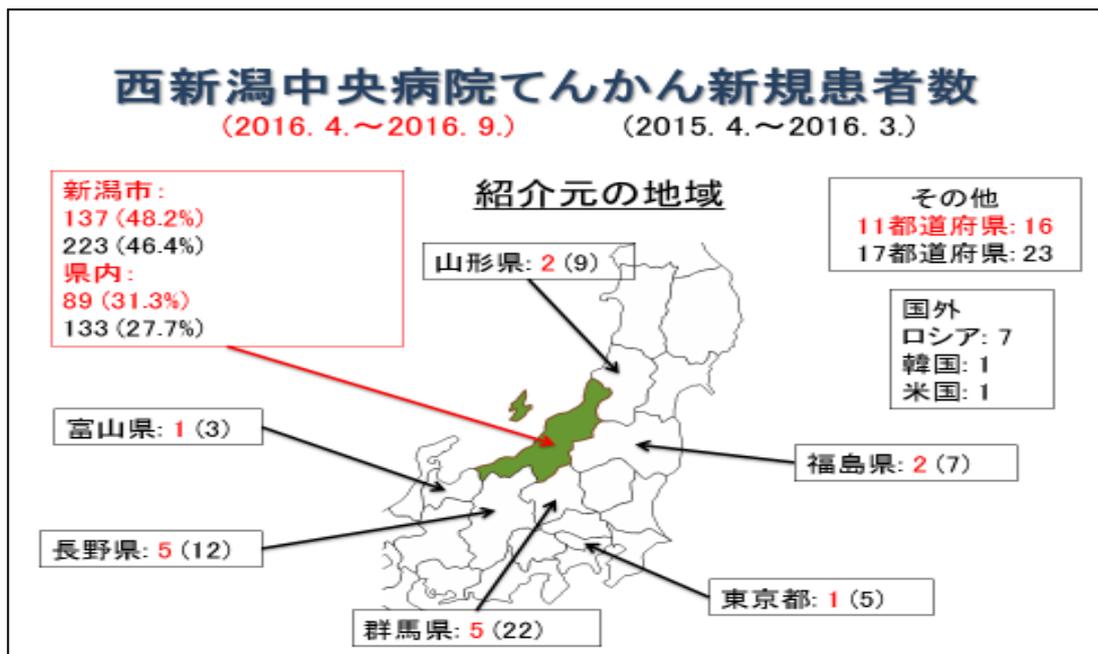
- ・ 治療機関を増やす試み
- ・ 各診療機関へのてんかん診療拠点病院の周知
- ・ 患者用のてんかんに関する本の提供
- ・ てんかんに関する各種研究会の開催
- ・ 新潟県内、隣県での医療者向けのセミナーの開催

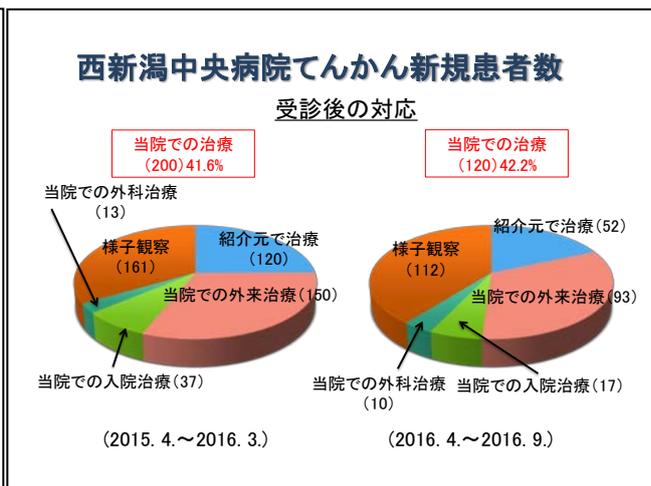
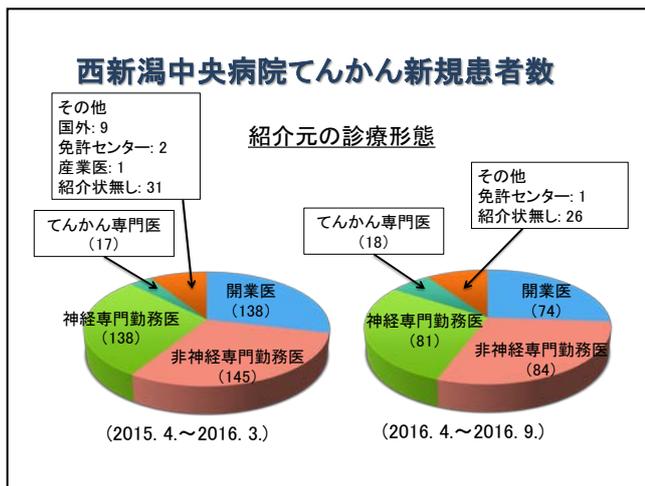
新潟県てんかん地域診療連携協議会		
所属	職位	氏名
新潟県福祉保健部	障害福祉課長	堀池 愛子
新潟県精神福祉保健センター	所長	阿部 俊幸
日本てんかん協会新潟県支部	代表	矢部 日出海
新潟大学脳神経外科	特任助教	平石 哲也
西新潟中央病院	神経部長	福多 真史
西新潟中央病院	統括診療部長	遠山 潤



## 2. 拠点病院・西新潟中央病院の現状

新規患者の住所は新潟市が約半数、その他の県内が3割であるが、近隣の県およびその他の都道府県、国外からも2割を占め、診療圏は県内に限らない。





年間約 200 名がそのまま当院で治療となっているが、このままでは破綻する。その点からも診療連携が重要である。難治例は、早期にてんかんセンターに紹介されることがほとんどであり、また新潟県は広いが専門医がほとんど新潟市と長岡市に偏在している。したがって、慢性期に加療できる病院・医院を増やし、けいれん重積時に地域で治療できる病院、精神症状をもつ患者さんを治療できる病院、てんかん患者さんの生活指導の普及が重要になってくる。

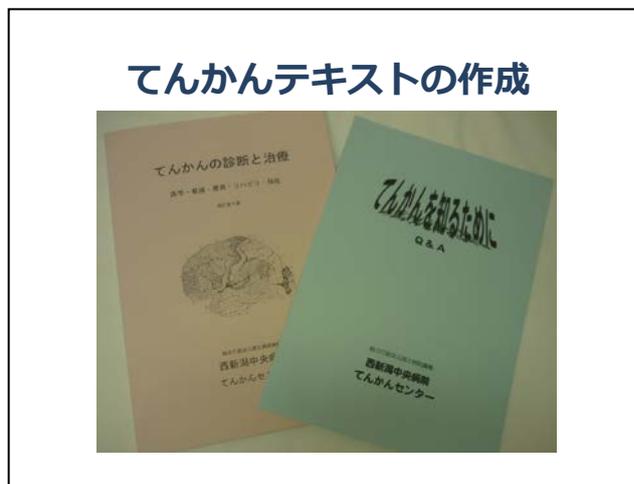


### 3. てんかん研修、普及啓発事業

このような現状に対応するため、以下の事業を行っている。

- ・てんかんセンター夏季セミナー
- ・看護師のためのてんかん研修
- ・検査技師のためのてんかん研修
- ・専門職のためのてんかん講演会
- ・市民てんかん講演会（年 3 回）
- ・てんかんテキストの作成と配布
- ・てんかん地域診療連携講演会、てんかん診療ネットワーク研究会

この中で、学校でてんかん発作の時にどうするか、てんかんを持つ生徒への対応をどうするか、教育委員会とのタイアップが重要であるとかんじている。



### 4. てんかん診療拠点事業の問題点

拠点機関に選ばれ、長時間ビデオ脳波検査料、脳波判断料増点により収入は増加した。しかし、新潟県の前算は年間 90 万円（国の分担は 45 万円）で、人件費には認められないので、予算の効率的な使用

をどうするか悩んでいる。現在は研修と普及啓発のためのてんかんテキストの作成に使用している。コーディネーターの育成は、人件費の問題と拠点事業の継続性の問題のため困難である

地域ネットワークの形成は、急性期治療と慢性期治療、精神疾患をもつ患者さんの治療、トランジションの問題をどうするかが問題である。



国立病院機構 西新潟中央病院てんかんセンター  
**夏季セミナー 2016**

てんかんの診断・治療の第一線を研修できる夏季セミナーを開催します。  
詳細は事務局までお問い合わせください。

**日時** 8月26日(金)～27日(土)  
**会場** 西新潟中央病院 研修棟研修室  
**募集人数** 約20名  
**参加費** 2000円(資料代、通信費、事務費として)  
**申し込み締切** 8月12日(金) 正午

※宿泊について  
希望者は当院研修棟に宿泊が可能です(個室2室、6人部屋2室、先着順)。  
8月25日(木)より宿泊可。一泊1000円。(寝具、水道、電気料金として)。  
当院研修棟に宿泊以外の方は各自市内ホテル等をご予約下さい。

**申し込み問い合わせ先**  
web: <http://www.masa.go.jp/epi/train.html>  
mail: [seminar16@masa.go.jp](mailto:seminar16@masa.go.jp)  
参加申込書は上記のホームページで配布。参加希望の方は必要事項を記入の上、  
FAX宛は西内容メールにてお送りください。なお、参加希望者多数の場合は先着順となります。  
〒950-2085 新潟市東区1丁目14番1 国立病院機構西新潟中央病院てんかんセンター  
夏季セミナー事務局(福多) TEL: 025-265-3171 FAX: 025-231-2631

国立病院機構西新潟中央病院てんかんセンター

**セミナープログラム**

(全)

受付	
開会の挨拶	病院長 内山政二
『てんかん総論』	福多真史
『てんかんの画像診断』	伊藤陽祐
『小児てんかん症候群』	遠山博
～昼食、院内見学(希望者)～	
『成人てんかんと精神症状』	長谷川直哉
『てんかんの心理検査』	吉野美穂子
～coffee break～	
『てんかんと運転免許』	福多真史
『抗てんかん薬の代謝と相互作用』	山田真大
『てんかんの外科治療』	白水洋史

(土)

『成人てんかんの薬物治療』	増田浩
小児の薬物治療と特殊治療	眞柄慎一
～coffee break～	
大塚製薬共催特別講演1 『てんかんにおける脳波検査』	聖隷浜松病院 てんかんセンター 藤本礼尚
～昼食～	
大塚製薬共催特別講演2 『てんかんの病理』	新潟大学脳研究所脳疾患リソース解析部門 柿田明美
閉会の挨拶	福多真史

国立病院機構西新潟中央病院てんかんセンター

**西新潟中央病院  
てんかんセンター  
第70回 市民講演会**

**てんかん患者さんと  
家族のための研修会**

**日時** 2016年10月29日(土)  
13:30～15:00(受付13:00～)

**会場** 長岡商工会議所 6階大会議室  
長岡市坂之上町2丁目1-1

**講演**

**2 難治てんかんの外科治療**  
機能脳神経外科医長 増田 浩

＜協賛＞  
公益社団法人 日本てんかん協会新潟県支部

入場無料・申込不要  
長岡駅より徒歩5分  
公共交通機関または隣接駐車場  
長岡ハーキング(有料)をご利用下さい。

問い合わせ: 管理課 武田  
電話: 025-265-3171

## 5. まとめ

新潟県のてんかん診療連携拠点事業は、はじまったばかりである。よりよいてんかん診療のために、地域の医院や病院と情報共有、医療相談を気軽にでき、組織だったてんかん治療の関係を構築するように今後も取り組んでいく予定である。